

鳥獣センター通信

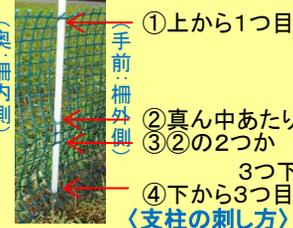
アナグマの被害対策 (飼料作物と牛舎飼料)

近年県内では、道路上で轢死したアナグマを見かける機会が増えています。有害鳥獣駆除による捕獲実績を見て平成20年度は4頭だったのが平成28年度には58頭と大幅に増加しています。

このような中、アナグマの被害対策として、中小型獣の生態や被害対策に詳しい、埼玉県農業技術研究センターの古谷益朗様をお招きし、二つの被害事例について現地研修を行いましたので、その内容を紹介します。

飼料用トウモロコシの食害

毎年のようにアナグマの食害を受けているこの飼料用トウモロコシ畑では、柵予定地が比較的平坦だったので、アナグマ等の中小型獣対策として使われる「楽落くん」で守ることにしました。作物の生長に伴って倒伏し柵線に触れて漏電の原因になったり、柵と作物が近すぎると加害獣の侵入意欲を高める要因になるので、農家の了解を得て設置予定ルート近接の作物を整理しました。実習では、受講者をグループ分けして全員で設置作業を行い、柵の機能を十分に理解しながら作業が出来、機能の重要性を感じ取ってもらいました。講師からは、アナグマの得意技である穴掘り動作を防止するため、地面の地形によってアナグマの目線か地際になる場所には設置しないようルート決めには注意する等の助言がありました。設置作業後に測った電気柵の電圧は7千3百ボルト有り、アナグマも近寄りたがたい柵となりました。



牛舎飼料の盗食



牛舎飼料を盗食するアナグマ



↑
応用柵の設置試行

この牛舎では数年前、アナグマによる飼料の盗食が確認されました。アナグマの侵入を防止するための方法として、「楽落くん」の機能を活かした代用資材を用いた応用柵を鳥獣センターから提案し、設置試行してみました。設置実習では作業性等を検討し、代用資材でも機能を確保できることを理解してもらいました。講師からは、潜り抜けを予防するため、ネット上部と柵線間から5cm以下になるよう、支柱間にある相互の間隔を確認し、必要箇所(3箇所程度)に結束バンドを使って確保すること、また、ネットの裾は、僅かな障壁であっても穴掘りをあきらめる行動特性を利用し、予め掘った溝への埋め込みを確実にしておくこと等の指導がありました。

また、牛舎への獣道を確認し、箱糞を設置する際の適地等の検討も併せて行いました。研修で学んだことが今後、被害現場での指導等で活かされることが期待されます。

設置した柵と使用資材の紹介

楽落くんの応用柵



- ①あいがもネット(目合い16mm幅100cm)を二つ折りして使用(地上高30cm、残りは埋込み)
- ②ネット用フック付ガイシー体型支柱(長さ96cm)
- ③柵線(PS線)
- ④結束バンド
- ⑤電牧器一式

結束バンド

ネットと地面との隙間を作らない(ネットの埋め込みは地中でネットが壁になるように行う(応用柵))

楽落くん



- ①トリカルネット(目合い17mm幅100cm)を3分割して使用(高さ33cm)
- ②グラスファイバーポール(長さ1m径10mm)
- ③柵線用クリップ(径10mm)
- ④带状柵線のリボンワイヤー
- ⑤結束バンド
- ⑥電牧器一式

被害対策に関する問合せ
西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合
等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

中部地域



中部地域特命チーム会議の開催

中部地域特命チーム会議では、集落人口が高齢化する中で、設置した防護柵の維持管理の難しさや対応について意見交換を行うとともに、長期的視点に立った被害防止対策として「豊かな森づくり」の重要性等について、猟友会の代表者の皆様から意見をいただき、その対応について協議しています。

また、鳥獣被害対策支援センター職員を講師に招き、集落対策をベースとし、被害実態に応じた効果的な捕獲対策や中長期的視点に立った鳥獣の生息環境対策の必要性について研修を受け、鳥獣被害の実態や対応についての認識を深めています。



事前研修会「みんなで勉強」の開催

中部管内では、井上スペシャリストが提唱される「みんなで勉強」の観点から、交付金活用による防護柵設置予定集落を対象に、事前研修会を実施しています。

研修会では、まず、被害誘発の原因が集落側にもあることを住民に理解してもらいます。その上で、防護柵を設置する際の注意点や省力的な管理が可能となるルート等について、十分な意見交換を行い、集落全体での合意形成を進めています。毎回、地形をよく知る住民ならではのアイデアや情報が出され、活発な議論の場になっています。

今後も、事前研修会を通じて、防護柵設置や維持管理が集落ぐるみの取り組みになるよう、意識啓発を図っていくこととしています。

西臼杵地域

平成29年度、西臼杵地域では5集落のモデル集落に対して、被害防止対策活動を行ってきました。

その中で、今回は「高千穂町五ヶ村東集落」の活動を紹介いたします。

五ヶ村東集落は、平成28年度からモデル集落として活動を開始し、ワイヤーメッシュ柵の効果的な設置方法等の研修会、柵設置場所の検討、集落点検活動等に取り組んだ後、ワイヤーメッシュ柵の設置を行いました。その後、平成29年度には、集落ビジョンの作成に取り組みました。集落で栽培される農作物の作業時期に合わせて被害対策活動を検討し、いつ・どのような対策を行えば被害が軽減できるかを明確にすることを意識して完成させました。

今年度は、作成した集落ビジョンに基づいた活動を実践中です。集落の方からは、「鳥獣被害は減少した」との声が聞かれ、その効果を実感されています。年度末には、検討会を開催する予定で、一年間の活動を振り返って、より集落に適した集落ビジョンとなるよう、改善していくこととしています。



集落点検活動の様子

鳥獣被害対策ビジョン

●履(行事、農作業、被害対策)

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な行事		丹子さらい										
水稲	播種	代かき	田植				収穫					収穫後モイシヤシカに注意!
トウモロコシ	播種				収穫			収穫				
農作業		収穫終了						収穫開始				
シイタケ								クヌギ伐採			玉切り	駒打ち
ナス		定植	収穫開始					収穫終了				カラスに注意!
獣害対策			メッシュ柵点検									反省会

※ 柵の設置状況を定期的に確認し、撤去作業を行う。

作成した集落ビジョン